

1-2 福崎町の歴史文化の特徴

(1) 歴史文化の特徴

歴史文化は、単体で存在するものではなく、さまざまな要素の「つながり」のなかで形成され、醸成されていくものです。そのなかでも、福崎町では、「人のつながり」、「自然とのつながり」、「神仏とのつながり」、「他地域とのつながり」が、福崎町固有の歴史文化をつくりだす重要な鍵となっています（表 1-6）。

表 1-6 福崎町の歴史文化の特徴の4つの視点と8つの骨子

視点	特徴（骨子）	「1-1 福崎町の歴史文化の成り立ち」から導かれる主なキーワード
人の つながり	学問・芸術文化の隆盛と 各界偉人の輩出	● 柳田國男、井上通泰、藤本煙津などの各界偉人の輩出 ● 柳田國男生家や鈴ノ森神社、玉垣、三木家文書などのゆかりの歴史文化遺産 ● 藤本煙津の書画など、絵画・詩歌、奉納絵馬などの作品 ● 井上通泰歌碑などの顕彰碑・墓碑
	受け継がれる旧村単位 の地域コミュニティ	● 秋祭りに見られる村と村のつながり ● 年中行事、寺社・惣堂等とそれらを支える村の組織 ● 地域の歴史を伝える古文書 ● イットウなどの家のつながり
自然との つながり	美しい自然に抱かれた 豊かな暮らしの場	● 古くからの暮らしを物語る古墳や集落遺跡などと出土遺物 ● 中世荘園（田原荘、高岡荘、蔭山荘） ● 暮らしや営みの様子を伝える民具 ● 七種山や七種の滝などの山・川・滝や社叢・巨樹・巨木などの自然
	自然と共に生き育んで きた農業	● 現在に伝わる米づくり、郷土料理などの食文化、もちむぎの特産品開発 ● かつての蒔・刈生産や酪農などの副業と諸産業 ● ため池・疎水の築造・開拓（西光寺野の開拓史）と農村景観 ● 自然との闘い（災害）、寛政一揆
神仏との つながり	祈り・信仰を伝え活力を 生み出す祭り・行事	● かつての信仰を伝える寺院跡などの遺跡と出土遺物 ● 秋祭りやかくしぼちよじなどの年中行事、浄舞や追儺（鬼追い）などの民俗芸能 ● 年中行事の舞台となる寺社・惣堂や集落空間、屋台などの祭具 ● 石仏・石塔など、木造薬師如来坐像などの仏像、アカエイ図などの絵馬
	場所やモノに秘められ た数々の民間説話	● 『播磨国風土記』の地名説話、小字地名の由来 ● 市川のカタロ、西光寺野のキツネなどの民間説話 ● 民間説話を伝える歴史文化遺産
他地域との つながり	東西・南北の道の交差点 に行き交う人・物・情報	● 石の道（高室石製の石棺や玉垣などの石造物） ● 生野街道、北条街道と辻川界隈、市川の舟運・渡しと駒ヶ岩 ● 西国三十三所巡礼道や法華道などの信仰の道、道端に残る道標等 ● 近代以降の交通（生野鉱山寮馬車道、内藤利八と播但鉄道）
	播磨諸地域との密接な かわり	● 大國播磨と『播磨国風土記』 ● 播磨天台山の神積寺、播磨らしい民俗文化（播州秋祭り、浄舞や追儺（鬼追い）等） ● 嘉吉の乱と山名・赤松の戦乱、春日山城跡などの中世城跡と播磨平定 ● 姫路藩との関わり（姫路城心柱の供出、姫路城主歴代御位牌、固寧倉等） ● 神崎郡の中心（旧神崎郡役所、旧辻川郵便局など） ● 高橋の弾薬庫や防空壕、ポール中尉等殉職慰霊碑

これら4つの視点から導かれる8つの特徴（骨子）が、相互に関係し合い、その総体として、福崎町の歴史文化がつくり出されています。（図 1-16）

4つの視点から見た歴史文化の特徴は、26～27 ページのように整理できます。

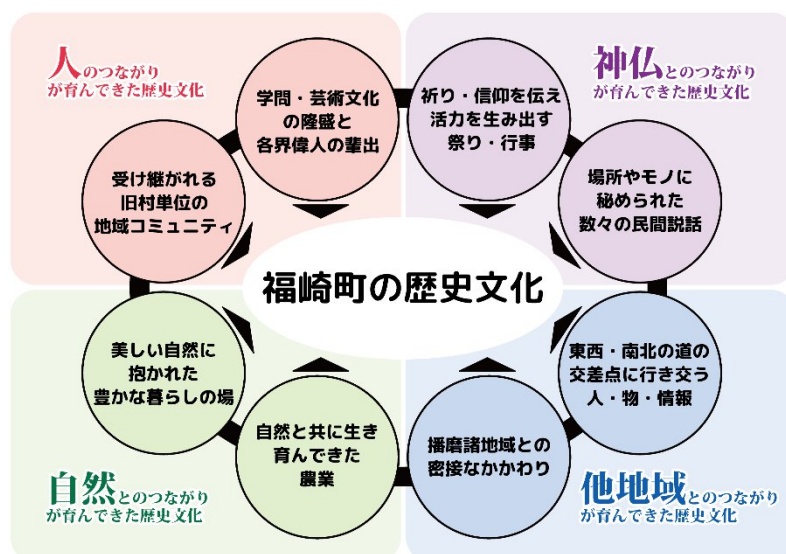


図 1-16 各視点からみた特徴の総体としての福崎町の歴史文化

【 福崎町の歴史文化の特徴 】

人のつながりが育んできた歴史文化

- 学問・芸術文化の隆盛と各界偉人の輩出
- 受け継がれる旧村単位の地域コミュニティ

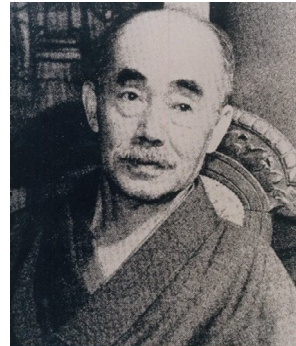
人と人とのつながりは、歴史をつくり、文化を育む源となります。福崎町では、この人のつながりが二つの大きな歴史文化の特徴を創り出してきました。

一つは、旧村を単位とした地域コミュニティです。近世村落は現在の自治会に、明治期に成立した田原村・八千種村・福崎村は現在の地区に受け継がれています。そして、祭り・行事や民間説話をはじめとした暮らしのなかに伝わるさまざまな民俗文化は、先祖とのつながりの歴史や住民相互のつながりの強さを感じさせるものとなっています。

そしてもう一つは、学問・芸術文化における各界偉人の輩出です。福崎町は、日本民俗学の父といわれる柳田國男をはじめとした松岡五兄弟、吉識雅夫、藤本煙津、岸上大作など、多くの学者や文化人等を輩出してきました。これを支えたのは、福崎町の風土や個々の才能のみならず、友や師弟、親兄弟など、好学の風がもたらす多くの人々とのつながりでした。



秋祭り
(南大貫大年神社)



柳田國男

自然とのつながりが育んできた歴史文化

- 美しい自然に抱かれた豊かな暮らしの場
- 自然と共に生き、育んできた農業

福崎町には、七種山・七種の滝、市川の清流などの豊かな自然が広がります。その恵みのもと、古くから人々がこの地に暮らし、営みを続け、南田原長目遺跡や宮山遺跡をはじめとした数多くの遺跡を残し、妙徳山古墳など、有力者の墓とされる規模の大きな古墳も多く見られます。また、豊かな自然は現在も、四季の移ろいを感じられる美しい風景として私たちの暮らしを豊かなものにすると同時に、観光資源として多くの人々を誘うものとなっています。

一方、その自然は、時として人々に大きな試練を与えてきました。河川の氾濫などの災害は言うまでもなく、西光寺野の開拓など、とりわけ生業である農業の発展に多大な労力を要しました。河岸段丘などの複雑な地形や少ない雨量を克服するため、ため池や水路を築いて広大な農地を拓いてきました。それらの農地では、現在も米や特産のもちむぎなどを産し、ため池・水路や開拓の歴史と一体となった文化的景観をつくりだしています。



東広畑古墳
と農地



長池

神仏とのつながりが育んできた歴史文化

- 祈り・信仰を伝え、活力を生み出す祭り・行事
- 場所やモノに秘められた数々の民間説話

無病息災・五穀豊穡・家内安全... 古来、人々は八百万の神が宿る自然を崇拝し、神仏を信仰し、祈りを捧げてきました。福崎町の各村々や寺社でも、古くから暮らしや生業に関わるさまざまな年中行事が行われてきました。都市に近い農村地帯であることから、近代化の波や生活様式の変化などを受けて失われたものも少なくありません。しかし、現在も、秋祭りをはじめ、かくしほちよじ、追儼（鬼追い）、虫送り、ニジュウソなどの年中行事が受け継がれ、伝統を伝えています。

この祈りや信仰と密接に関わりながら、数多くの説話や伝承が生まれ、伝えられてきました。『播磨国風土記』に見られる地名説話をはじめ、柳田國男によって広く知られる市川のガタロ、西光寺野のキツネ、小字地名の由来など、さまざまな民間説話が残されています。これらは町内の歴史文化遺産と一体となって魅力を高め、福崎町の歴史文化をより一層深みと趣のあるものにしていきます。



神前山



神積寺追儼
(鬼追い)

他地域とのつながりが育んできた歴史文化

- 東西・南北の道の交差点に行き交う人・物・情報
- 播磨諸地域との密接なかかわり

市川が拓く南北の道、山崎断層がつくる東西の道。これらの東西・南北の道の交差点に位置する福崎町は、古くから人・物・情報が行き交い、常に他地域からの影響を受けながら歴史や文化を育んできました。現在も残る街道・古道の道筋や町並み、町内各所に残る石造物などは、往時の交通の要衝としての繁栄と他地域とのつながりの歴史を物語っています。

とりわけ播磨地域の一角を占める当町は、播磨諸地域とのつながりが強いことが特徴です。「播州秋祭り」の祭礼文化圏に入ることはもちろん、各時代で見ても、古代の大国播磨と『播磨国風土記』、中世の播磨天台六山の一つ神積寺と赤松・山名の合戦、近世姫路藩の大庄屋制度と固寧倉、近代の神崎郡の中心としての発展と生野鉾山寮馬車道、そして戦時中の姫路の後背地としての弾薬庫など、播磨地域の歴史や文化とともにあるといっても過言ではありません。



北条街道



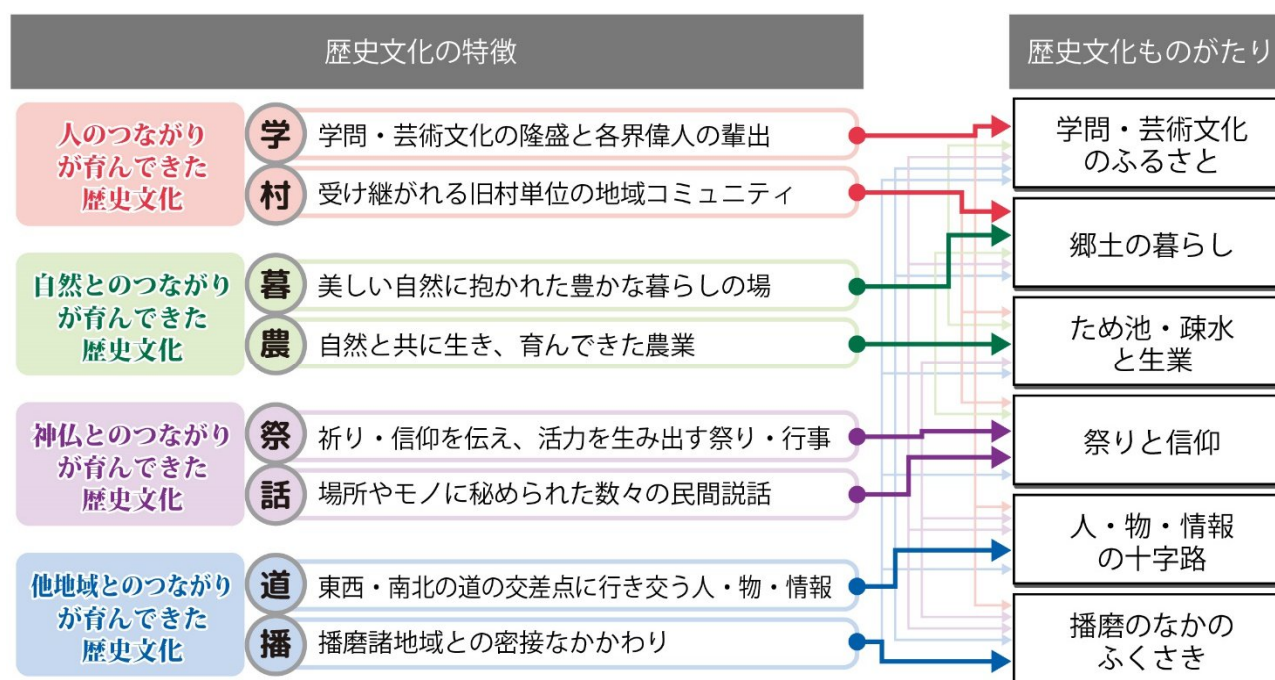
旧神崎郡役所

(2) 歴史文化ものがたり

「歴史文化ものがたり」とは、町内の多種多様な歴史文化遺産を歴史文化の特徴に基づいて、一定のまとまりとして捉えて整理することにより、福崎町の歴史文化の特徴を具体化し、その内容を分かりやすく解説することを目的として設定するものです。

具体的には、歴史文化の特徴の相互の関係を踏まえた上で、複数の歴史文化の特徴を反映したまとまりとして、6つの「歴史文化ものがたり」を設定しています。(図 1-17、表 1-7)

なお、「歴史文化ものがたり」は、今後、福崎町の歴史文化の価値や魅力を町内外に広く発信したり、数多くの歴史文化遺産をつながげながら効果的にまちづくりに活かすためのツールとして使っていくことが想定されます。また、6つの「歴史文化ものがたり」をもとに、各自治会で話し合いながら、より身近な単位の「歴史文化ものがたり」を考え、身近な歴史文化遺産の保存・活用に取り組む手がかりとしていくことも大切です。



注) 太線の矢印は歴史文化ものがたりの中心となる歴史文化の特徴、薄い細線の矢印は関連する歴史文化の特徴を示しています。

図 1-17 「歴史文化の特徴」と「歴史文化ものがたり」の関係

表 1-7 福崎町の歴史文化ものがたり

学問・芸術文化のふるさと  【構成内容】 ・大庄屋三木家・好学の風 ・寺子屋・私塾 ・文化人の交流の輪 ・福崎町ゆかりの偉人 ・俳諧などの庶民文化 ・三木家と松岡家 ・松岡五兄弟 【主な歴史文化遺産の項目】 ・生家やゆかりの地 ・顕彰碑・墓碑 ・文書・書画等 ・絵馬・玉垣等の奉納品	郷土の暮らし  【構成内容】 ・原始・古代の暮らしを伝える遺跡 ・中世荘園と人々の暮らし ・近世の村々と古文書 ・村の組織とイットウ ・暮らしの道具 ・豊かな暮らしを支える美しい自然 【主な歴史文化遺産の項目】 ・遺跡や出土遺物 ・民具（生活用具） ・文書・書画等 ・自然資源
ため池・疎水と生業  【構成内容】 ・福崎の生業・米づくり ・農地の開発 ・西光寺野の開発 ・自然との関いの歴史 ・近代以降の副業と諸産業 ・特産品「もちむぎ」 【主な歴史文化遺産の項目】 ・ため池・疎水・農業と文化的景観 ・用水開削・ため池築造等の記念碑 ・民具（生業・農業関係） ・災害・防災に関連する遺構・遺物	祭りと信仰  【構成内容】 ・原始・古代の信仰 ・仏教 ・民間説話と信仰 ・祭り・行事 ・播州秋祭り ・信仰を伝える歴史文化遺産 【主な歴史文化遺産の項目】 ・祭り・行事・民俗芸能 ・寺社・惣堂・石塔等 ・仏像・神像や祭具、祭祀に関係する遺構・遺物 ・民間説話とその対象
人・物・情報の十字路口  【構成内容】 ・石の道 ・信仰の道 ・街道と町場の発達 ・舟運と渡し ・生野鉱山寮馬車道～播但鉄道 【主な歴史文化遺産の項目】 ・高室石製の石棺・石造物 ・街道・古道等 ・路傍の道標・地蔵等 ・舟運と渡し ・街道集落の町並み	播磨のなかのふくさき  【構成内容】 ・播磨国風土記 ・赤松・山名の合戦と中世山城 ・姫路藩 ・近代・神崎郡の中心地 ・戦争と福崎 ・民俗文化 【主な歴史文化遺産の項目】 ・風土記ゆかりの地 ・赤松氏と中世動乱に関係する遺構・遺物 ・姫路藩に関係する遺構・遺物 ・近代・神崎郡に関係する遺構・遺物 ・戦争遺跡 ・民俗文化

注：図中の文字は、それぞれ次の特徴の要素にあたります。

学：学問・芸術文化の隆盛と各界偉人の輩出
村：受け継がれる旧村単位の地域コミュニティ
暮：美しい自然に抱かれた豊かな暮らしの場
農：自然と共に生き、育んできた農業

祭：祈り・信仰を伝え、活力を生み出す祭り・行事
話：場所やモノに秘められた数々の民間説話
道：東西・南北の道の交差点に行き交う人・物・情報
播：播磨諸地域との密接なかわり

凡 例
●：構成する主な歴史文化の特徴
○：関連する歴史文化の特徴



柳田國男生家



柳田國男・松岡鼎奉納玉垣（鈴ノ森神社）



書：倉本樸山、画：藤本煙津



三木家旧蔵書の一部



ヤマモモ（鈴ノ森神社）

学問・芸術文化のふるさと

近世になり庶民にも学問・芸術文化が普及するなかで、大庄屋三木家の好学の風や東西・南北の街道を行き交う人・物・情報、そして近代の郡の中心地としての繁栄は、学問・芸術文化をめざましい発展へと導きました。また一方では、美しい自然やそれらを彩る説話・伝承は、詩歌や絵画、研究などの題材となり、学問・芸術文化の発展を支えました。そして、柳田國男をはじめ、多くの学者や文化人を輩出してきました。

町内には偉人ゆかりの歴史文化遺産や、先人たちによる活発な学問・芸術文化活動を物語る数多くの歴史文化遺産が伝わり、日々の暮らしのなかで、ふと目にすることができます。そして、偉人の顕彰を通じた人材育成や他地域との交流、公民館クラブの活動など、「学問・芸術文化のふるさと」の土壌を活かした取組が展開されています。

■大庄屋三木家・好学の風

江戸時代、三木家は姫路藩の大庄屋を務め、地域の発展に尽くすだけでなく、地域文化の中心的役割を果たしてきました。数代にわたる好学の当主が収集した四千冊余の蔵書は、三木家の学芸を培養する源となりました。また、文化サロンの主催などを通じた辻川村の松岡家や北野村の早家などとの交流や、蔵書の貸し出しなど、地域の「知」の拠点となっていました。

特に江戸時代後期の当主3代、通庸・通明・通深は、京都・大坂・江戸で学問を修め、学芸に深い関心をもって活躍しており、各地の文人・学者との交流の記録も残っています。

■寺子屋・私塾

幕末から明治初期にかけて、神埼郡には寺子屋や私塾が多数開かれ、福岡町には、田原村西田原（松岡操）、八千種村八千種（佐治実義）、福岡村西治（水野日寅）、福岡村福岡新（森熊吉）の4か所の記録が残ります。このうち、西田原の私塾が松岡塾です。かつて柳田國男の祖母・松岡小鶴が開き、父・松岡操が再興したもので、ここで國男や、後に平民社の指導者・普通選挙運動の先覚者となる佐治実然も学んでいます。

■文化人の交流の輪

近代以降も、近世に育まれた好学の風は受け継がれ、辻川への郡役所の設置は文化人の交流の輪を広げる後押しとなりました。神東・神西郡長の倉本樸山は、職務のかたわら、郡書記を務めた藤本煙津、三木通済、松岡操などと文化的交流を深めました。この辻川を中心に形成された知識人グループは、明治以降の各分野に活躍する人材輩出の源となりました。

■福岡町ゆかりの偉人

やなぎた くにお 柳田 國男	明治8年(1875)～昭和37年(1962)。松岡家の六男。民俗学者・官僚。日本民俗学を開拓・確立。昭和26年文化勲章受章。福岡町名誉町民。
まつおか かなえ 松岡 鼎	万延元年(1860)～昭和9年(1934)。松岡家の長男。昌文小学校（現田原小学校）校長の後、医師・千葉県布佐町長を務め、地方医療・行政に尽力。
いのうえ みちやす 井上 通泰	慶応2年(1866)～昭和16年(1941)。松岡家の三男。眼科医・歌人・国文学者。著作には『萬葉集新考』、『播磨風土記新考』などがある。
まつおか しずお 松岡 静雄	明治11年(1878)～昭和11年(1936)。松岡家の七男。海軍軍人として日清・日露戦争に従軍し大佐まで昇進。退役後、民族学者・言語学者。
まつおか てるお 松岡 輝夫	明治14年(1881)～昭和13年(1938)。松岡家の八男。日本画家。雅号は「映丘」。有職故実の研究を行い、大和絵の復興に尽力。
よしき まさお 吉識 雅夫	明治41年(1908)～平成5年(1993)。船舶工学者。本籍は大貫。大型タンカーの開発に携わる。昭和57年文化勲章受章。福岡町名誉町民。
ふじもと えんしん 藤本 煙津	天保9年(1838)～大正15年(1926)。本名節二。日本画家・篆刻家。山水画を得意としたほか、漢詩・篆刻でも多くの作品を残す。
きしがみ だいさく 岸上 大作	昭和14年(1939)～昭和35年(1960)。歌人。福岡高校時代から作歌を始め、21歳で亡くなるまで歌人として活躍。

※この他、三木家当主をはじめ、倉本樸山、佐治実然、大杉兵太郎、松岡源之助など、数多くの文人・歌人等があげられます。



■俳諧などの庶民文化

17世紀後半に松尾芭蕉によって完成された俳諧は、地方にも多くの俳諧宗匠を生み、彼らを中心に俳諧連中が形成されて、俳諧人口のすそ野を広げました。『印南野』(元禄9年(1696))、『俳諧五々の冬 春曙庵追善』(寛延3年(1750))、『蓬萊帖』(天明8年(1788))などには、福崎町の人々の名が見られます。

このような俳書への入句や同好の仲間との句会の開催などに加え、雑俳(雑多な形式と内容をもつ遊戯的な俳諧)ではありますが、神社に多くの俳額が奉納されており、俳諧が身近な文芸として、広い階層に親しまれていたことを伝えています。

また、俳諧の他にも近世以来、詩歌や絵画、華道、裁縫などのさまざまな庶民文化が盛んであったことが、今日に伝わる奉納絵馬や和歌額、各種師匠の墓碑などからうかがうことができます。

■三木家と松岡家

三木家と松岡家の交流は、5代通庸の時代から始まったとされています。通庸と松岡義輔(柳田國男の曾祖父・医者)は詩友で、6代通明は義輔のもとで手習いを学びました。柳田國男の祖母・松岡小鶴は、医術・儒学などに通じ、7代通深と親交がありました。こうした学問的交流を背景に、8代通済は國男を自宅へ預かり、莫大な蔵書を自由に読むことを許し、9代拙二と國男は竹馬の友として生涯にわたり親交を深めました。

■松岡五兄弟

鼎、通泰、國男、静雄、輝夫の五兄弟は、それぞれの道で大成し、後に「松岡五兄弟」と呼ばれます。その大成は、祖母や両親の教え、兄弟間での支え合いや交流、文化人との交流などによって支えられたものでした。

特に國男は、11歳の時、1年間三木家に預けられ、ここで歴代三木家当主が収集した大量の書物と出会い、この読書体験が、後年、日本民俗学を生む基礎となったことが、著書『故郷七十年』に記されています。13～15歳の2年間は、布川(茨城県利根町)の鼎に引き取られ、旧小川家の蔵書による知識と故郷辻川にないさまざまな経験は、後の民俗学研究につながるものとなりました。16歳で通泰に引き取られ、通泰を通じて森鷗外との知遇を得て、「秋元安民伝」を『めざまし草』(森鷗外主宰)に寄稿しています。19歳で第一高等中学校に進学しますが、その際には、鼎と通泰から学資などのさまざまな支援を受けています。

この他にも、兄弟間でのさまざまな交流があったことが、著書や葉書、書簡、写真などから知ることができます。

同家に裏手にいまでも残っている土蔵風の建物の二階八畳には、多くの蔵書があった。そして階下が隠居部屋で二階には誰も入れないことになっていたのだが、私は子供のころから、自由に蔵書のある所へ出入りして本を読むことができた。あまり静かなので、階下からおじいさんが心配して「寝てやしないか」と声を掛けることがあったほど、私はそれらの蔵書を耽読した。(中略)私の雑学風の基礎はこの一年ばかりの間に形造られたように思う。

(柳田國男『故郷七十年』(幼時の読書)、
『柳田國男全集』第21巻(1997.11, 筑摩書房))



左から輝夫、静雄、國男、鼎、通泰(大正10年12月15日)

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】近世～近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
生家やゆかりの地	・柳田國男生家【県指定】 ・三木家住宅【県指定】 ・ヤマモモ(鈴ノ森神社)【町指定】	・圓覺寺：佐治実然出身寺	・観音寺：井上家菩提寺
顕彰碑・墓碑	・松岡小鶴・三子墓碑(悟真院墓地) ・三木家当主の墓碑(悟真院墓地) ・倉本樸山墓碑(悟真院墓地) ・藤本煙津墓碑(井ノ口墓地) ・俳諧師匠墓碑(葉師寺墓地) ・華道師匠墓碑(長目) ・大工・俳諧師匠墓碑(円乗寺北墓地)	・寺子屋師匠墓碑(東大貫墓地)	・井上通泰歌碑(観音寺) ・寺子屋師匠墓碑(蓮華寺墓地) ・裁縫師匠墓碑(蓮華寺墓地、金剛城寺) ・義太夫師匠墓碑(山崎千束) ・大工・俳諧師匠墓碑(新町墓地)
文書・書画等	・三木家文書 ・雲津橋石標：藤本煙津書 ・恵美須神社戦役記念碑：藤本煙津書 ・歴史民俗資料館や柳田國男・松岡家記念館等の所蔵品 (松岡映丘画稿、藤本煙津書画など)	・従軍記念碑：藤本煙津書(常住寺)	・大杉兵太郎頌徳碑：藤本煙津書 ・児島仰藏頌徳碑：藤本煙津書(新町墓地) ・田賀神社記念碑：藤本煙津書(田賀神社)
絵馬・玉垣等の奉納品	・松岡鼎・柳田國男奉納玉垣(鈴ノ森神社) ・井上通泰奉納玉垣(田尻熊野神社) ・井上通泰奉納狛犬(三十八社) ・松岡源之助奉納十二支図・鶏(鈴ノ森神社) ・俳諧額(田尻熊野神社)	・茶道図(南大貫大年神社) ・俳諧額(南大貫大年神社、日吉神社、余田大歳神社) ・発句集額(余田大歳神社)	・松樹図：藤本煙津画(西治八幡神社) ・俳諧額(新町天満宮、二之宮神社、三宮神社、西谷大歳神社、廣田神社) ・和歌額(一之宮神社、西治八幡神社) ・浄瑠璃会額(新町天満宮)



妙徳山古墳



西治下代ノ下モ遺跡出土品



田原村西田原小字絵図（井ノ口区蔵）



七種の滝（七種山）

郷土の暮らし

七種山や市川などの美しい自然に抱かれた福崎町域には、旧石器時代には人がいたとされ、縄文時代以降、この地で人々が暮らし続けています。

人々は集まって暮らすなかで、場所や生業、信仰、家などのつながりで社会的なまとまりをつくって助け合い、時代ごとの新たな技術や知恵を取り入れながら、暮らしの質を高めてきました。このことは、現在に伝わる遺跡や出土遺物、民具、古文書類などが如実に物語っています。

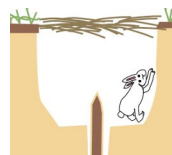
科学技術の進歩などにより生活様式は大きく変化しましたが、地域の土地利用や組織、自然との関わり方、生活用具など、所々にその痕跡を垣間見ることができ、現在の私たちの暮らしが、先人のたゆみない努力の結晶であることを感じることができます。

■原始・古代の暮らしを伝える遺跡

町内で今からおよそ2万年前の人々が使っていた石器が見つかったことから、少なくともその時代には人がいたと思われます。以降、縄文・弥生・古墳、そして、古代の飛鳥・奈良・平安に至る各時代において、町内各地で人々が暮らしを営み、残された数多くの遺跡から、各時代の暮らしの様子が明らかになってきています。

【縄文時代】

人々は小さい川近くの山すそに住んで、石器や縄文土器を用いた狩猟・採集の生活を送っていました。八千種地区の平野部には多くの落とし穴が見つかり、水を飲むために山から川へと向かう動物を捕獲していたと考えられています。



落とし穴のイメージ



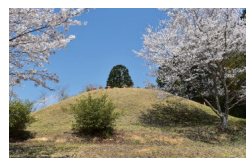
落とし穴（上から）
（八千種土古屋敷遺跡）

【弥生時代】

稲作が伝わり、人々は定住し、安定した生活を営むようになりました。それは一方で、地域のまとまりとその頂点に立つ有力者を生み出し、環濠を巡らせたとされる高所の集落遺跡（南田原長目遺跡）から、地域間の争いが生じていたとも考えられています。

【古墳時代】

本町域では5世紀から6世紀に多くの古墳が築造されました。有力者の権力の象徴でもある古墳は、その周囲に築造に関わった集落があったと考えられ、妙徳山古墳と加治谷藪下五反畑遺跡など、古墳と集落の関係も明らかになりつつあります。



相山古墳

【飛鳥・奈良・平安時代】

「大宝律令」によって古代律令制が確立し、国・郡・里（郷）が置かれました。本町域は播磨国神前郡の高岡里、川辺里、多駝里にあたとされています。また、条里（条坊）制により土地を碁盤目状に区切り、班田収授法に基づいて農民には口分田が支給されました。町内でも平野部の南田原条里遺跡で畔の状況から条里の痕跡が推測できます。

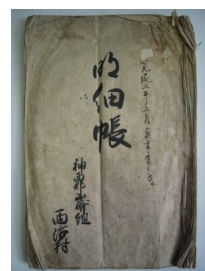
■中世荘園と人々の暮らし

中世は荘園制社会であり、本町域には田原荘、高岡荘、蔭山荘の3つの荘園がありました。現在の田原地区は田原荘、福崎地区は高岡荘、八千種地区は蔭山荘に属したと考えられ、荘園から穫れた米は、年貢米として領主へ納められました。

■近世の村々と古文書

江戸時代の村々の様子を伝える資料に、村明細帳があります。福崎町域32村のうち14村（19冊）に明細帳が残っています。作成年代は、江戸時代中期から後期で、明細帳には、耕地面積、石高、年貢、人口や作物の品種、特産品、余業、用水、入会山などが克明に記され、村の様子や村人の日常生活も知ることができます。

また、村の景観を平面的に描いた絵図も数多く作成されており、道、田畑、川や池、山、寺社、家屋などが描かれ、当時の土地の使い方などを知ることができます。



西治村の村明細帳



■村の組織とイットウ

現在の福崎町の33自治会は、概ね近世の村（集落）を引き継いでいます。この村のなかにも、かつては近隣の数軒～十数軒の家が集まってつくられた組織（ジョなどと呼ばれる）があり、田植え前の溝普請や、夏の山林の下草刈り、冬の道普請などの共同作業や相互扶助が行われていました。第二次大戦中に隣組が制度化されて、ジョを引き継ぐ形で隣保組織ができ、現在も各自治会のもとに隣保が置かれて神社の管理や清掃などの共同作業が行われています。

一方、かつては、このような村の社会組織とは別に、同じ名字の家で組織されたイットウがあり、先祖の祭りや慶弔時の行事などが行われていました。他地域からの来住者の増加や生活様式の変化などにより、現在、イットウの多くは失われていますが、自治会内に同じ名字の家が多いことなどに、その名残をとどめています。

イットウの事例（西治区）

牛尾イットウ、木村イットウなどがあり、一年に一度、先祖の祭りを講のかたちで行っていました。ステバカ※もイットウごとに区分が分けてありました。

※遺体を埋葬する「埋め墓」と、靈魂を祀る「詣り墓」をもつ両墓制における「埋め墓」を「ステバカ」とも呼びます。

■暮らしの道具

遺跡から出土する遺物や各家に遺された民具は、往時の人々の暮らしを知ることができると同時に、時代を通じた道具や技術の変遷を知る手がかりとなります。

稲作が始まった弥生時代には、粳を貯蔵する壺、米を煮炊きする甕、盛りつけをする鉢や高坏などが用いられました。時代を経るなかで土器は改良され、煮る、蒸す、炊くなどの調理ができるようになりますが、現代の鍋やせいろと同じようなものが当時から使われていたことも分かっています。

また、福井谷遺跡出土の木製の鍾は、現代に残る民具にも同様のものがあり、俵を編む作業は昔から大きく変わらずに行われていたことが分かります。

歴史民俗資料館では、衣食住に関わるさまざまな遺物や民具を保管・展示しています。



歴史民俗資料館での民具の展示

■豊かな暮らしを支える美しい自然

西光寺野の台地状の地形や市川の氾濫など、福崎町の自然は人々の暮らしにとって必ずしも優しいものばかりではありませんでした。しかし、人々はこの地を選び、美しい自然とともにある豊かな暮らしを営んできました。

美しい自然は、近代、地域の政治・文化の中心として本町に集った多くの文化人たちの詩歌や絵画の題材にもなりました。明治19年（1886）には、林雙橋（淡路出身の儒学者）、倉本櫟山、三木通済が郡内の風景のすぐれた場所を「神崎十勝」として選び、雙橋と櫟山が漢詩をつくり、藤本煙津が絵を描いています。本町域では「七種瀑布」、「高岡紅葉」、「妙徳晚鐘」、「巖橋秋月」、「辻川古樅」の5つが選ばれています。

なお、七種山は、昭和6年（1931）以降、七種霊山保勝会が観光開発を進め、昭和11年（1936）には、「七種瀧金剛城寺」が県下八景に選ばれました。



「神崎十勝図巻」（妙徳晚鐘・巖橋秋月部分）

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】原始・古代～近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
遺跡や出土遺物	・南田原長目遺跡 ・南田原条里遺跡 ・加治谷敷下五反畑遺跡 ・西広畑遺跡 ・妙徳山古墳【県指定】 ・東広畑古墳【町指定】 ・東新田古墳【町指定】 ・歴史民俗資料館の所蔵遺物	・福井谷遺跡 ・八千種庄古屋敷遺跡 ・八千種庄春日遺跡 ・八千種庄北挾遺跡 ・西大貫遺跡 ・鍛冶屋遺跡 ・相山古墳【町指定】 ・八千種埋蔵文化財倉庫の収蔵遺物	・林谷遺跡 ・朝谷遺跡 ・桜東畑遺跡 ・田口トツタニ遺跡 ・西治下代ノ下モ遺跡 ・大塚古墳【町指定】 ・神谷古墳【町指定】 ・朝谷1号墳【町指定】
民具（生活用具）	・歴史民俗資料館の所蔵民具（着物類、炊事用具、家具・調度品など）	—	—
文書・書画等	・三木家文書 ・区有文書、寺社文書などの古文書 ・歴史民俗資料館の所蔵品（書画等）	・区有文書、寺社文書などの古文書	・区有文書、寺社文書などの古文書
自然資源	・辻川山 ・大門宮山 ・妙徳山 ・市川 ・雲津川	・春日山 ・日光寺山 ・住吉山 ・高倉山	・七種山【県指定】 ・神前山 ・應聖寺庭園【県指定】 ・市川 ・七種川

ため池・疎水と生業



西光寺野疎水路



蒔機



田回奥池



もち麦畑

弥生時代に農業が伝わって以来、福崎町の生業は農業が中心でした。

豊作を祈願・感謝した祭り・行事や溝普請などの共同作業は、地域コミュニティの絆を深める重要な役割を果たしてきました。そのなかで、人々は、ため池の築造や疎水の開削などにより、厳しい自然条件を克服して、広大な農地を拓き、また、蒔・刈の生産などの副業、酪農や醸造業などの諸産業を育み、安定した暮らしと地域の発展を支えてきました。

先人が築き上げてきた豊かな生業の場は、現在も米づくり、そして特産のもち麦の栽培などが行われ、美しい風景を受け継ぐとともに、人々の暮らしと町の発展を支える重要な役割を担い続けています。

■福崎の生業・米づくり

弥生時代には本町域にも米づくりが伝わり、稲作を中心とした生活が始まりました。米づくりに関する遺物としては、^{もみ}の痕が残った土器や石包丁が見つかっています。以来、米づくりは福崎町の生業として、人々の暮らしを支えています。

江戸時代には新田開発がすすめられ、農業技術も進歩し、生産性が飛躍的に上昇しました。当時の農業の様子は、近隣都市の寺社に奉納された絵馬（早川神社（姫路市）や埋田神社（神河町）の四季農耕図絵馬など）から知ることができます。また、明治31年（1898）に三木家の雇用人が記した年間の業務記録『農業日誌』からは、明治期の福崎における米づくりの様子を知ることができます。

歴史民俗資料館には、1年の農作業（苗代、播種、荒起こし、代かき、苗取り、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、俵しめ）を行うことができる多くの農具を所蔵しており、わたしたちの先祖が改良と工夫を重ねてきた米づくりの苦勞を知ることができます。



籾の痕跡のある土器片
（宮山遺跡）

■農地の開発

江戸時代中期以降、本町域においても数多くのため池が築造され、新田開発が進められました。また、寛政元年（1789）の大庄屋三木通庸による犬ヶ鼻の岩をくり抜いた水路の開削や、天保年間（1831～1845）から明治期のビワクビ疎水路の工事など、用水路の整備も進められました。なかでも、本町域での最も大掛かりな開発は、西光寺野の開発でした。



ビワクビ井堰記念碑

■西光寺野の開発

田原村・八千種村と山田村・船津村・豊富村（現姫路市）にまたがる西光寺野は、肥沃で水田に適していましたが、微高地のため灌漑用水を得ることが困難で、原野のまま田原庄12村の入会秣場になっていました。

近世後期に姫路藩の命により、新田開発が試みられました。その経過は、開発を主導した三木家に残る『西光寺野御新開一件控』5冊から知ることができます。この開発で23町歩余の新開地が生まれましたが、『庄区有文書』には、慶応4年（1868）頃、小松の生えた薪採り場となって、姫路藩の鉄砲の試射場にも使われていたことが記されており、必ずしも成功したとはいえませんでした。

明治時代末の調査により、瀬加村の岡部川（現市川町）を水源とし、延長約8.8kmの水路（西光寺野疎水路）により、西光寺野にため池を築造することになりました。大正3年（1914）に水利工事、翌年に耕地整理が完成し、西光寺野の開発が完了しました。なお、これにより、近世の新田開発地の大部分が池として消滅しましたが、桜下池周辺の小字に「新開」の名前で名残をとどめています。



西光寺野疎水路の煉瓦トンネル



■自然との闘いの歴史

江戸時代の寛延一揆（1748～1749）は、早魃^{かんぼつ}と台風による凶作が引き金の一つでした。このように、本町域では、風水害や干害が多く、洪水も頻繁に発生していました。

昭和に入り、戦前最大の災害は、昭和8年（1933）の大降雹^{たいこうりょう}でした。神戸新聞では「突如^{もつと}物凄い雷雨を伴ひ^{だいきんぼうもつうい} 大旋風猛威を揮ふ^{ふる} 死傷者三百余一家屋の倒壊算なし」と報じており、被災した八坂神社千年松の根株は、覆い屋をかけて保存され、その被害の大きさを伝えています。

戦後は、戦時中の山林伐採のため、水害が相次ぎます。大型台風の襲来も多く、被害が拡大したことから、1950年代から植林や河川改修工事が進められ、防災対策が講じられてきました。

■近代以降の副業と諸産業

近代以降、農業の副業としての蕨・吹の製造をはじめ、酪農^{まっち}、燐寸小箱素地やクレー（陶土）の生産、清酒などの醸造業、瓦産業などの諸産業が展開しました。また、松茸の産地としても有名で、秋になると臨時松茸列車が増発され、阪神地方からの茸狩り客で福崎駅周辺は大変なぎわいとなりました。

【蕨・吹】

明治時代から昭和30年（1955）頃まで、神崎郡の特産品として、兵庫県内有数の産額を誇った産業に、蕨・吹製造があります。蕨は、稲わらを織ってつくった敷物で、住居の敷物、農作業などに使用されました。吹は、蕨を二つ折にして左右の両端を縄で縫い綴じた袋で、穀物、肥料、塩、石炭などを入れました。

明治初年には山田村（姫路市）、八千種村で製造されていた蕨・吹は、日清・日露戦争の軍用吹の供出により飛躍的に発展しました。大正末期には神崎郡内のほとんどの農家に、蕨・吹を織る機械が備え付けられ、郡の中心的な副業として経済を支えましたが、戦後の高度経済成長のなかで、紙袋・麻袋・ビニール袋に押されて、消えていきました。

【酪農】

蕨・吹の生産による地力の消耗を補給するため、明治時代末頃から酪農が推奨されました。明治41年（1908）、西光寺野の開墾地に奥平農場が開設し、大正9年（1920）には日本練乳会社（後の森永製菓株式会社）仮受乳場が福崎村に誘致されました。しかし、昭和6年（1931）、工場は事業不振のため閉鎖し、以後、販路を阪神間の工場に求めていきました。

■特産品「もちむぎ」

福崎町では、古くから大麦の一種であるもち麦を栽培して、団子として食べられていましたが、食生活の変化に伴い、昭和30年代には栽培しなくなりました。その後、昭和58年（1983）より特産物づくりを検討し、町にゆかりのあるもち麦の栽培を推進し、現在、もちむぎ麺、もちむぎカステラ、もちむぎ精麦など、多くの特産品が開発・販売されています。



昭和38年の集中豪雨による水害（月見橋）



蕨



吹



もちむぎ商品

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】原始・古代～近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
ため池・疎水・農業と文化的景観	- 長池 - 桜上池・下池 - 姫ヶ池 - 西の池 - 大歳谷池 - 大日池 - 西光寺野疎水路 - ピワクビ井堰 - 堰溝 - もちむぎ（もち麦畑・各所）	- 長池 - 宮の池 - ミロく池 - 荻又池 - 鴻池 - もちむぎ（もち麦畑・各所）	- 田口奥池 - 矢口奥池・中池・口池 - 神谷皿池 - 前池（神谷） - 東光寺池 - 板坂奥池 - 直谷池 - もちむぎ（もち麦畑・各所） - 矢口林道からの風景
用水開削・ため池築造等の記念碑	- 新渠碑 - ピワクビ井堰記念碑 - 大門大歳谷池 池供養之塔	柳谷池 難波寿輔頌徳碑	- 田口奥池 溜池新築記念碑 - 新町井堰改修記念碑 - 山崎水路改修記念碑
民具（生業・農業関係）	歴史民俗資料館等の収蔵民具（蕨、吹、蕨機、脱穀用具、耕起具など）	—	—
災害・防災に関連する遺構・遺物	- 八坂神社千年松株 - 固寧倉扁額（歴史民俗資料館蔵）	—	固寧倉



木造薬師如来坐像（神積寺）



神前山の磐座



かくしほちよじ



秋祭り（熊野神社）

祭りと信仰

生業・営みのなかで生まれた神仏への祈りと信仰は、寺社や石仏・石塔、祭り・行事、民間説話などのさまざまな形で、現在の私たちの暮らしに息づいています。

それらは、地域の歴史文化の成り立ちを伝え、歴史文化遺産をより一層魅力的なものとし、私たちの地域に対する誇りや愛着の源となっています。また、人と人との絆を育み、豊かな地域コミュニティをつくり出し、生き生きとしたまちをつくる原動力になると同時に、人々の地域の空間・環境に対する認識や、自然との良好な関わりのあり方を伝える前近代的な知として、現代社会を生きる私たちに多くの教訓を与える重要な役割も担っています。

■原始・古代の信仰

弥生～古墳時代の西治下代ノ下モ遺跡では祭祀に関わる土坑と土器、南田原長目遺跡では祭祀用の土器に加え、祭祀に使われたと思われる分銅形土製品も見つかっています。また、奈良時代の八千種庄文治遺跡出土の斎串（木の枝や薄い板などを串状に作ったもの）や福井谷遺跡の土馬（土製の馬）なども祭祀に使われたと思われます。

奈良時代の地誌『播磨国風土記』の神前郡条冒頭には、建石敷命が神前山に鎮座したことから、神前郡と名付けたことが記されています。現在も、神前山には建石敷命の依代とされる磐座（巨石）があり、麓の二之宮神社は建石敷命を祭神の一つとしています。



分銅形土製品
（南田原長目遺跡）



土馬
（福井谷遺跡）

神前郡。右、神前と号くる所
以は、伊和大神の子建石敷命、
山使村の神前山に在しき。乃ち、
神在せるに因りて名とす。故、
神前郡と曰ふ。

（『播磨国風土記』神前郡条）

■仏教

6世紀中頃に仏教が伝わると、権威の象徴は古墳から寺院へと移りました。町内では、福田無量寺跡（福田区）で瓦片が出土し、旧官衙の一部か小規模な寺院と考えられています。また、應聖寺（板坂区）には、県内でも最も古い仏像彫刻の一つである白鳳時代（7世紀後半）制作の銅造誕生釈迦仏立像が伝わります。また、福井谷遺跡（小倉区・庄区）では、8世紀後半制作とされる木製の仏像も出土しています。

古代開基の伝承をもつ寺院には、應聖寺のほか、作門寺（現金剛城寺：田口区）、日光寺（西大貫区）、神積寺（加治谷区）がありますが、町内の寺院の多くは中世後期から近世の開基です。神積寺には、60年に一度ご開帳される秘仏としても知られる木造薬師如来坐像、後堀河天皇の皇后安喜門院の供養塔の阿弥陀種子板碑など、多くの歴史文化遺産が伝わっています。なお、中世の播磨の地誌『峯相記』（貞和4年（1348））には、播磨天台六山の一つとして「妙徳寺」（神積寺）があげられています。



木製の仏像
（福井谷遺跡）

■民間説話と信仰

『播磨国風土記』の地名説話や小字地名の由来、各寺社の寺伝・社伝をはじめ、「北野の文殊」や西光寺野のキツネ、さらには、柳田國男が『故郷七十年』にも記した河童のガタロや神隠し、千束など、数多くの民間説話が語り継がれています。

これらは、信仰や昔の人々の暮らしぶりを伝えると同時に、危険な場所など、地域の人々が伝えてきた空間認識を知ることができる重要な手がかりとなります。

辻川あたりでは河童はガタロというが、随分いたずらをするものであった。子供のころに、市川で泳いでいるとお尻をぬかれるという話がよくあった。それが河童の特長なわけで、私らの子供仲間でもその犠牲になったものが多かった。毎夏一人ぐらいは、尻を抜かれて水死した話を耳にしたものである。

（柳田國男『故郷七十年』駒ヶ岩の河太郎、
『柳田國男全集』第21巻（1997.11、筑摩書房））

□福崎町の民間説話を伝える資料

- ・『福崎ものがたりⅠ』（福崎町立図書館応援隊）
- ・『かたりべ』（福崎町かたりべ会）
- ・各自治会が作成した地域史誌 など



■祭り・行事

豊かな自然に恵まれた福崎では、主として農業が営まれ、豊作の祈願や感謝などを中心に、健康や安全などを祈る祭り・行事が数多く行われています。かつては講なども組織されていましたが、都市化の波のなかで、失われたものも少なくありません。柳田國男の『故郷七十年』からは、柳田が体験した明治10年代の田原村辻川を中心とする民俗文化を、また、『福崎村風俗調査書』からは、明治末年から大正初年頃の福崎村の年中行事、婚姻や出産などの人生儀礼、民間信仰などを知ることができます。

現在も、トンドや初午、地藏盆などの行事は多くの自治会で受け継がれ、特に鍛冶屋区のかくしほちょじは、古式の行事が形態をあまり変えずに継承されています。また、秋祭りの屋台奉納や浄舞、獅子舞、神積寺の追儼（鬼追い）などの播磨地域の特色を反映した民俗芸能や、およそ300年の歴史をもつ神仏習合の伝統行事である一之宮神社大般若転読会（應聖寺）も伝わります。

■播州秋祭り

毎年10月、収穫に感謝し、翌年の豊作を祈願する秋祭りが催されます。播磨地域の秋祭りは、多くの屋台が練り出す「播州秋祭り」として知られ、福崎町でも各自治会の屋台が町内4つの神社に集まり、盛大に行われます。福崎町は、その地理的特徴から、山手に多い布団屋根型屋台と、浜手に多い神輿屋根型屋台の両方が見られるという特徴があります。屋台奉納、屋台練りに加え、田原地区と八千種地区（旧八千種村の区域）では浄舞、福崎地区の桜区では獅子舞が奉納されます。

■信仰を伝える歴史文化遺産

寺社や惣堂等、地藏、石仏をはじめ、現在に残る玉垣や狛犬、絵馬などの奉納品など、人々の神仏への篤い信仰を知ることができる歴史文化遺産が町内各所に受け継がれています。

奉納品の奉納者名からは、本町の歴史を感じることができます。また、廣田神社のアカエイ絵馬など、地域の特徴的な信仰を伝えるものも見られます。

□現在に伝わる主な祭り・行事

月 日	名 称	開催場所
1月 成人の日頃	トンド ・かくしほちょじ ・法成就講 追儼（鬼追い）	町内各地 鍛冶屋区 高橋区 神積寺
2月 1日 第1日曜日 10日～11日 最初の午の日	一之宮神社大般若転読会（春） 採燈大護摩・鬼舞 えびすまつり 初午	一之宮神社 應聖寺 恵美須神社 町内各地
3月 春分の日	文殊会式	神積寺
5月 8日頃	花まつり	町内各地
7月 中旬頃 下旬頃	夏まつり ・川裾祭り ・百膳 虫送り	町内各地 中島区 南大貫区 大門区 鍛冶屋区 山崎区 高橋区
8月 24日頃	地藏盆	町内各地
9月 1日	一之宮神社大般若転読会（秋）	一之宮神社
10月 上旬	秋祭り	町内各地

□福崎町の秋祭り

地 区	神 社	屋 台		備 考
		布団屋根	神輿屋根	
田原地区	熊野神社（田尻区）	10台	2台	浄舞、浦安の舞 御輿渡御
八千種地区（旧大貫村）	大年神社（南大貫区）	3台	—	浦安の舞
八千種地区（旧八千種村）	大歳神社（余田区）	4台	—	浄舞、御輿渡御
福崎地区	二之宮神社（山崎区）	6台	7台	獅子舞（桜区）



布団屋根型屋台

神輿屋根型屋台

浄舞

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】原始・古代～近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
祭り・行事 ・民俗芸能	・秋祭り ・浄舞（熊野神社）【町指定】 ・追儼（鬼追い）（神積寺）【町指定】 ・虫送り（大門） ・川裾祭り（中島） ・トンド、初午、地藏盆 など	・秋祭り ・浄舞（余田大歳神社）【町指定】 ・かくしほちょじ（鍛冶屋）【県指定】 ・夏祭りの百膳（南大貫） ・虫送り（鍛冶屋） ・トンド、初午、地藏盆 など	・秋祭り ・獅子舞（桜）【町指定】 ・法成就講（高橋）【町指定】 ・虫送り（山崎、高橋） ・採燈大護摩・鬼舞、大般若転読会（應聖寺） ・トンド、初午、地藏盆 など
寺社・惣堂 石塔等	・郷社熊野神社などの地区内の神社 ・神積寺などの地区内の寺院 ・石造五重塔（伝慶芳上人墓）【県指定】 ・阿弥陀種子板碑（神積寺）【県指定】	・郷社余田大歳神社や南大貫大年神社などの地区内の神社 ・大善寺や常住寺などの地区内の寺院	・二之宮神社などの地区内の神社 ・應聖寺や金剛城寺などの地区内の寺院 ・阿弥陀堂【町指定】 ・庚申塔【町指定】
仏像・神像や 祭具、祭祀に 関係する 遺構・遺物	・木造薬師如来坐像（神積寺）【国指定】 ・木造阿弥陀如来坐像（神積寺）【町指定】 ・木造文殊菩薩坐像（神積寺）【町指定】 ・石造五如来坐像【町指定】 ・各自治会の屋台 ・南田原長目遺跡と出土遺物	・各自治会の屋台 ・西大貫の神輿 ・八千種庄文治遺跡や福井谷遺跡と出土遺物	・銅造誕生釈迦仏立像（應聖寺）【町指定】 ・各自治会の屋台 ・西治下代ノ下モ遺跡と出土遺物 ・福田無量寺跡
民間説話と その対象	・北野の文殊 ・河童のガタロ ・西光寺野のキツネ ・駒ヶ岩と神馬のひづめ伝説 ・鳥居林	・八千種の地名由来「八千軍野」	・七種山、神前山、磐座 ・千束の地名由来 ・西正寺の法蔵菩薩の掛軸伝承 ・ほりあげ地藏 ・いぼとり地藏尊

人・物・情報の十字路口



北条街道

福岡市は、南流する市川が拓く谷筋や低地と東西の山崎断層帯がつくる谷筋が交わる場所に位置し、谷筋や低地には多くの道が通されました。主な道には、古墳時代の石棺材を運んだとされる石の道、中世以降の西国三十三所巡礼道などの信仰の道、近世の生野街道や北条街道、市川の舟運や渡し、近代の生野鉱山寮馬車道があります。

これらの道は、人や物、情報が行き交い、村と村、人と人をつなぎ、沿道の暮らしや文化に大きな影響を与えてきました。また、それらが交わる場所には町場が発達して、交通の要衝として賑わいました。

交通手段の変化などに伴い、付け替え、失われたり、広域をむすぶ道としての役割を終えたものも多いですが、町内各所に残る石棺や路傍の道標、地蔵などは、かつての道が育んだ歴史文化を今に伝えています。

■石の道

町内の遺跡で発見された旧石器～弥生時代のサヌカイト（讃岐石）製の石器や、和歌山方面からの石材と考えられる絹雲母片岩による縄文時代の石棒（大門岡ノ下遺跡出土）は、古くから他地域とつながっていたことを示しています。

古墳時代には、石棺をつくるために加西市高室から石が切り出され、山崎断層帯などがつくる谷筋（大貫ルートと八千種ルート）を通して運び込まれたと考えられています。町内には21点の石棺材（高室石製）が確認されています。

高室石は、近世・近現代にも、墓石や神社の鳥居、玉垣などに利用されてきました。



石棺蓋石（宝性院）

■信仰の道

三十三観世音菩薩の化身数にちなんで、西国の三十三か所の聖地が札所に定められています。27番札所が書山園教寺（姫路市）、28番札所が世野山（現成相山）成相寺（京都府宮津市）で、この区間の巡礼道が板坂区から田口区を横断しており、「じゅんれいみち」と刻まれた道端の道標などから、当時の道筋をたどることができます。板坂区では、共同墓地前辺りに茶屋が置かれ、地蔵堂はかつて巡礼道沿いに位置して巡礼者の宿にもなったこと、大正時代初期頃までは巡礼者を宿泊させる家が8戸あったことなどが伝わります。また、應聖寺に残る赤穂浪士討ち入り事件に関する手紙（豊岡の実家にいた大石内蔵介の妻・りく宛とも考えられる書状）は、播磨・但馬を結ぶ巡礼道ならではの歴史を物語っています。また、第26番札所の法華山一乗寺（加西市）への法華道も古くから栄え、八千種地区には法華道に関する道標も残っています。

このほか、山崎の千束などの地名伝承や西光寺野のキツネなどの民間伝承が残る道も、人々の信仰を伝えています。



法華道の道標（小倉区）

■街道と町場の発達

町内には、南北に姫路から生野へと通じる生野街道（但馬道）、東西に北条から夢前へと通じる北条街道が通っています。これらの道筋は、古くから人々の交流や交易を支え、浄舞や獅子舞などの民俗芸能、おかげ踊りなどの文化・流行を伝えてきました。

これらの道の交差点あたりにあたる辻川には町場が形成されてにぎわいました。この辻川界隈は、江戸時代には大庄屋を務めた三木家の屋敷（三木家住宅）があり、明治時代には旧神崎郡役所などが置かれて、地域の政治・文化の中心地でもありました。その中心性と他地域との交流は、柳田國男をはじめとした多くの文化人を輩出する礎となりました。

辻川というような非常に古い道路の十文字になった所に育ったことが、幼い私に色々の知識を与えてくれたように思う。その道路の上を通った者のことが記憶に残っていたり、自分でも様々の見聞をしたりしたので、外部のものの一つ一つに対してこんなに関心を寄せながら成長するようになったのであろう。

（柳田國男『故郷七十年』有志家というもの、『柳田國男全集』第21巻（1997.11、筑摩書房））



田口路傍道標（西国三十三所巡礼道）



駒ヶ岩の船着き場



かつての生野鉱山寮馬車道



■舟運と渡し

【舟運】

江戸時代、大量の物資を輸送する手段として高瀬舟が大きな役割を果たし、市川にも、寛永3年（1626）から明治時代初期まで舟運がありました。宝暦5年（1755）以降、福崎新村や辻川村に高瀬舟持ちが現れ、生野街道と市川が交わる井ノ口村には問屋があり、物資輸送の中継地点になっていました。市川の川岸から駒ヶ岩にのびた石組みは、船着き場（湛保）で、周辺には積み荷の集積・保管倉庫（浜倉）が建ち、三木家に運び込まれた年貢米は、駒ヶ岩から高瀬舟で飾万津へと下り、大坂に送られました。

【渡し】

市川を横断する渡し舟も運行していました。『市川実測図』（明治中期作製）から、福崎町域には、井ノ口の渡しと福崎新村の渡しの2か所があったことが知られています。

井ノ口の渡しは、昭和22年（1947）に月見橋（吊り橋）が架橋された後もしばらく航行したとされています。福崎新村の渡しは、大正時代に木橋、昭和6年（1931）に鉄橋の神崎橋が架橋されて役目を終えました。



大正時代の井ノ口の渡し



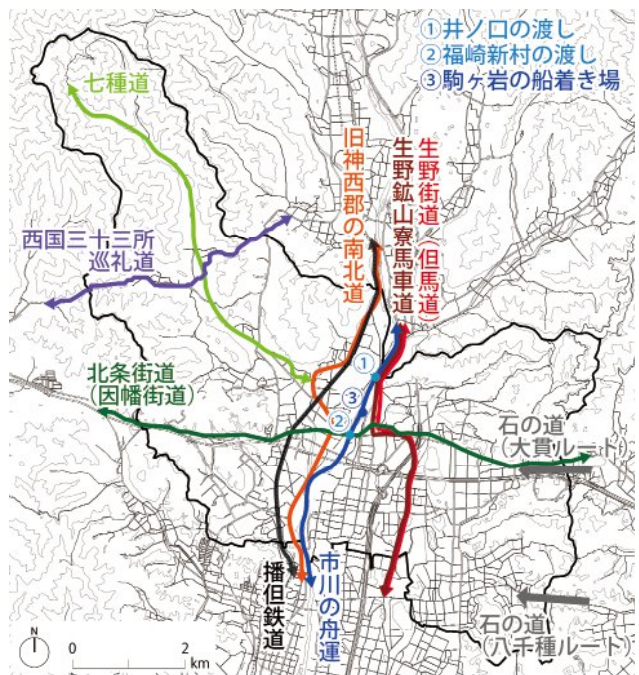
福崎駅凱旋橋迎風景（昭和8年）

■生野鉾山寮馬車道～播但鉄道

明治政府による鉾山の近代化が進められるなかで、明治9年（1876）、生野・姫路間に日本初の産業専用道路「生野鉾山寮馬車道」がつけられました。

近世からの町場が発展していた辻川は、馬車道の物資輸送の拠点として重要な役割を担いました。馬車道の整備にあたり、三木家は表門と土塀を建て替え、1間（約1.8m）ほど北に移動させて用地を提供しており、現存する表門の部材からは、かつての表門の大きさを知ることができます。

輸送量の増加に伴い、内藤利八により播但鉄道敷設の準備が進められ、明治27年（1894）に姫路・寺前間、翌28年（1895）に寺前・生野間が開通しました。播但鉄道は、乗合馬車や人力車などの駅への交通を発達させ、遠方からの人々や物資の往来を活発にするなど、地域の人々の生活を大きく変えていくものとなりました。



主な道の分布

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】原始・古代～近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
高室石製の石棺・石造物	・伝山崎群集墳出土石棺（歴史民俗資料館） ・宝性院 石棺蓋石 ・薬師寺 石棺底石 ・八反田公民館横 石棺 ・大門公民館横 石棺底石 など	・大善寺裏山 石棺蓋石残欠 ・小倉地蔵庵跡地 石棺棺身 ・西邦寺 石棺蓋石	・山崎立石 石棺蓋石 ・大塚・五反田北畔 石棺底石残欠 ・應聖寺 石棺蓋石 ・東光寺池傍 石棺蓋石（三界万霊塔） ・醫王寺 石棺蓋石 など
街道・古道等	・生野街道（但馬道） ・北条街道（因幡街道） ・生野鉾山寮馬車道	・北条街道（因幡街道） ・法華道 ※ルート不明	・北条街道（因幡街道） ・七種道 ・西国三十三所巡礼道 ・旧神西郡の南北道
路傍の道標・地蔵等	・北野地蔵堂 道標 「右ハひ免し 左ハ北条道」 ・西光寺路傍 道標 「右飾磨姫路 左 不つけさん □□ 道」 ・田尻地蔵堂 道標 「右もん志ゆ 左たしま」 など	・庄（玉屋）路傍 道標 「左北条 右法花山」 ・余田路傍 道標 「右法花山 左北条」 ・小倉路傍 道標 「右ぼつけ 左北条」 など	・新町路傍 道標（天明5年造立） 「右たしま 左なくさ 道」 ・田口路傍 道標 「右丹後成相山 左前之庄穴栗」 ・板坂路傍道標 「ひだりじゅんれいミち」 など
舟運と渡し	・市川 ・駒ヶ岩（湛保） ・歴史民俗資料館所蔵の古文書類（市川実測図、三木家文書など）	—	—
街道集落の町並み	・辻川の町並み	—	—



七種山



神積寺



固寧倉



かつての神崎郡役所

播磨のなかのふくさき

古代、福崎町域は大国播磨に属し、『播磨国風土記』には現在に伝わる地名も見られます。また、中世は赤松氏の所領、近世は姫路藩領として、播磨地域に展開したさまざまな歴史的事象の舞台となり、赤松氏や姫路藩に関係する数々の歴史文化遺産が残されました。近代には、播磨のなかでも特に神崎郡の政治の中心となり、人・物・情報が集積するなかで地域知識人グループが形成されるなど、文化面においても中核を担ってきました。そして、戦時下には、姫路の後背地として軍事施設も立地しました。

このように、播磨の歴史や文化と歩みを共にしてきた福崎町には、播磨の歴史文化の特徴が散りばめられ、播磨地域の歴史文化と一緒に捉えることで、より一層輝きを増す歴史文化遺産が数多く受け継がれています。

■播磨国風土記

風土記は和銅6年(713)の元明天皇の命令により編さんが始まったとされます。「国郡郷の名」「産物」「土地の肥沃の状態」「地名の起源」「伝えられている旧聞異事」が記された古代の地誌で、出雲・常陸・播磨・豊後・肥前の5か国で写本が残っています。

『播磨国風土記新考』(昭和6年(1931))は、現代の風土記研究のバイブルのひとつにもなっています。また、松岡静雄は昭和2年(1927)に『播磨風土記物語』を出版、松岡映丘は風土記に登場する大国主命を描いています。

本町域は、『播磨国風土記』の神前郡条に見られる6つの里のうち、高岡里、川辺里、多駝里にあたるとされ、神前山、奈具佐山(七種山)、八千軍野(八千種)など、現在に伝わる地名も見られます。



大国主命(松岡映丘)

■赤松・山名の合戦と中世山城

中世の播磨は、四職の一つとして幕府内で力をもった赤松氏の所領となりました。町内には、春日山城、高峰山城、高橋城、田口山城などが築かれており、春日山城は赤松氏の幕下とされる後藤氏を城主とし、高峰山城は赤松貞範を祖とする赤松氏伊豆家一族を城主とするなど、赤松氏との深いつながりを感じることができます。

嘉吉の乱で赤松氏が幕府に反旗を翻すと、その後、播磨国内では、度々赤松・山名両軍による合戦が繰り返されました。東西・南北の道筋が交差する本町域では、多くの軍馬や兵士が行き交ったと考えられ、西光寺区の五輪塔は、嘉吉の乱の戦死者を供養したものともいわれています。

■姫路藩

関ヶ原の合戦後、池田輝政が播磨一国の領主として姫路に入城し、姫路藩が成立します。江戸時代を通じて、福崎町域の村々はすべて姫路藩領でした。

姫路藩では数村から20数村ごとに大庄屋組を設けて大庄屋が置かれました。本町域では辻川組、余田組、山崎組などの大庄屋組が設けられ、このうち辻川組の大庄屋が三木家でした。大庄屋三木家は、姫路藩全藩で繰り返された寛延一揆(1748~1749)の打ちこわしを免れた数少ない大庄屋の一つで、屋敷構えや数多くの文書を残し、それらから往時の町や姫路藩による支配の様子を知ることができます。

一揆後の藩政改革のなかで、飢饉や災害に備えて米や麦を蓄えた「固寧倉」が姫路藩各地に設けられ、福田区には固寧倉が現存しています。

その他、姫路城の心柱は大善寺(西大貫区)境内から伐り出されたこと(『大善寺縁起』より)、姫路藩主の命で奉獻された岩尾神社の石造鳥居(加治谷区)、應聖寺の姫路城主歴代御位牌(板坂区)、姫路城主本多忠国寄進の不動明王坐像(長目区)など、本町域の村々と姫路藩の深いつながりを示すものが数多く残っています。



不動明王坐像(長目区)



■近代・神崎郡の中心地

明治19年(1886)、神東・神西郡役所が屋形村(市川町)から西田原村辻川に移転して新庁舎が建設され、明治29年(1896)には、神東・神西2郡が統合され、神崎郡役所と改称されました。大正12年(1923)に郡制が廃止されるまでの約40年にわたり、神崎郡の政治・文化の中心として、この地方の発展に大きな役割を果たしてきました。

明治25年(1892)には田原村辻川に株式会社田原銀行、明治30年(1897)には福崎村福田に福崎商業銀行が設立され、明治35年(1902)には福崎村福崎新に福崎警察署が建てられました。また、明治後期以後に各地で出版される郡誌類の先駆けとなる『神東神西郡沿革考』(明治29年(1896))の出版、日露戦争記念としての振武館の建設(明治40年(1907))、現在の福崎高校の前身となる福崎村立実科女学校の創立(大正3年(1914))などのさまざまな事業が展開されました。このような地域の中心性を背景に、幕末の三木家を中心とした地域の知識人の交流はより一層活発なものとなり、数多くの作品が残されてきました。

■戦争と福崎

第二次世界大戦が開戦するなか、昭和16年(1941)、高橋に大規模な軍事施設が進出してきました。大阪陸軍航空補給廠姫路出張所、通称「高橋の弾薬庫」といわれる施設です。姫路の後背地として、爆薬と航空燃料の貯蔵と補給を任務とし、主として神崎郡内出身者により、爆弾・砲弾の弾体への爆薬の充填などが行われていました。

昭和19年(1944)になると戦局が悪化し、本土の本格的空襲が必至となったことから、「高橋の弾薬庫」の疎開が急務となり、鉾山の廃坑や山中などに爆薬などが移され、1,000人を超える人々が動員されて、高橋、西谷、西治で約20か所の爆薬壕が急造されました。しかし、岩盤が多く能率が悪かったため、桜区などでさらに20～30か所が掘られたとされています。

現在、「高橋の弾薬庫」跡地の大部分は、工業団地へと姿を変えていますが、表門・裏門跡などにその痕跡を残し、町内には爆薬壕跡や防空壕跡を確認することができます。また、終戦翌年の爆薬庫保管品類の処理中に起こった爆発事故で亡くなった指揮官ポール中尉やアメリカ兵、日本人作業員の慰霊碑も建立されています。

■民俗文化

播磨天台六山の一つである妙徳山神積寺と追儼(鬼追い)、播州秋祭り・屋台や浄舞・獅子舞などの村の祭りや家の行事、習俗や方言、食文化などの人々の暮らしには、播磨の特徴を色濃く感じられる民俗文化が数多く受け継がれています。

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】古代～近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
風土記ゆかりの地	・柳田國男・松岡記念館の所蔵品 (井上通泰の風土記研究関連資料等)	・地名説話「八千軍野」 ・日光寺山(「砥川山」の候補地)	・七種山【県指定】 ・神前山 ・山崎(「山使村」の候補地)
赤松氏と中世動乱に関する遺構・遺物	・五輪塔(西光寺) ・教願寺	・春日山城跡 ・高峰山城跡	・高橋城跡 ・田口山城跡 ・應聖寺
姫路藩に 関係する 遺構・遺物	・三木家住宅【県指定】 ・石造鳥居(岩尾神社)【県指定】 ・不動明王坐像(長目) ・三木家文書	・大善寺	・固寧倉【町指定】 ・旧小國家住宅主屋他【国登録】 ・姫路城主歴代御位牌(應聖寺)
近代・神崎郡 に 関係する 遺構・遺物	・旧神崎郡役所【県指定】 ・旧辻川郵便局【国登録】 ・振武館建設跡地の碑 ・三木家文書	—	—
戦争遺跡	・防空壕(井ノ口、西光寺)	—	・弾薬庫表門跡、裏門跡 ・弾薬壕(田口、桜、西谷) ・ポール中尉等殉職慰霊碑
民俗文化	・秋祭り・屋台 ・浄舞(熊野神社)【町指定】 ・追儼(鬼追い)(神積寺)【町指定】	・秋祭り・屋台 ・浄舞(余田大歳神社)【町指定】	・秋祭り・屋台 ・獅子舞(桜)【町指定】



松岡(藤本煙津、倉本機山、林雙橋の寄せ書き)



ポール中尉等殉職慰霊碑

